

第2学年 道徳科学習指導案

令和2年11月30日（月）3校時

豊見城市立豊崎小学校 2年3組26名

授業者

共同研究者

1 主題名 「勇気をもって」

2 主題のねらい

◎よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

3 教材名 「おれた ものさし」(出典：『新訂 新しい 道徳』)

4 学習指導要領の内容を押さえた道徳的価値

学習指導要領には、内容項目【A主として自分自身に関すること】の【1善悪の判断、自律、自由と責任】について学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年	中学校
よいことと悪いこと の区別をし、よい と思うことを進んで 行うこと。	正しいと判断した ことは、自信をもっ て行うこと。	自由を大切にし、 自律的に判断し、責 任のある行動をする こと。	〔自主、自律、自由と 責任〕 自律の精神を重ん じ、自主的に考え、判 断し、誠実に実行して その結果に責任を持つ こと。

物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。

人として行ってよいこと、社会通念として行ってならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。よいこと、正しいことについて左右されることなく、自ら正しいと信じるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。

この時期の児童においては、何事にも興味、関心を示し意欲的に構想することが多い反面、まだ集団生活に十分に慣れていないために、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。

指導に当たっては、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。

5 道徳的価値に関するこれまでの指導の成果と課題を踏まえた児童観

本学級の児童は、明るく男女ともに仲よく過ごすことができ、学校や学級のきまりを守る子は多い。しかし、遊びの中でつい楽しくて…つい仲良しの友だちにつられて…と善悪の判断が鈍くなることもある。

本学級の児童に、事前に「善悪の判断」に関するアンケート調査を行った。

①「友だちが悪いことをしているなど気付いた時、あなたならどうしますか？」

- ・だめだよと注意をする 38% ・すぐに先生に言う 46%
- ・注意しても聞かなかったら、先生に言う 15%

②「だめだよと伝えることは大切だと思いますか」

- ・とても大切だと思う 85% ・まあまあ大切だと思う 15%

- ・あまり大切だと思わない 0% ・大切だと思わない 0%

〈理由〉 ・悪いことが広がるから ・自分も巻き込まれるから
・友だちが怒られるのを見たくないから ・注意しなかったら悪いことが続くから
・みんなが嫌な気持ちになるから ・その人の悪いところが治らないから

《アンケートの考察》

①の「友だちが悪いことをしているなど気付いた時、あなたならどうしますか？」という質問に対して、半数以上の児童が“だめだよと注意をする”と回答した。その中には、“注意をしてもきかなかったら先生に言う”と回答した児童もいた。反対に、“すぐに先生に言う”と回答した児童も半数近くいる。

②の「だめだよと伝えることは大切だと思いますか」という質問に対しては、全児童が大切と思うと回答している。

この結果から、児童は悪いことは悪いと伝えなければいけないと考えていることが分かる。しかし、この時期の発達段階から見て、悪いことをしている子がいたらまずは先生に伝えなければいけないと考えている児童も多いことが分かる。伝える大切さの理由の中には、“悪いことをしたらだめだよ。と教えるのも思いやりだと思う”と回答している児童もいた。

本時の資料を通して、主人公が友だちの言動を悪いことだと判断し立ち向かった行為を、自分事として考えさせ、本時のねらいとするよいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てたい。

6 期待する道徳的価値や児童観に基づいた教材観

児童たちにとって、影響力の強い子の不正に対して、勇気を出して指摘するということは、現実には難しい。それだけに、登場人物の気持ちがよく分かり、「ぼく」のとした態度に共感できる分かりやすい教材である。

(あのときとおなじだ…)という「ぼく」の表情の厳しき、不正に対する許せない心の高まり、気持ちの変化をじっくりと捉えて、ねらいに迫っていきたい。

折れたものさしを「ぼく」がのぼるに渡す中心発問の場面では、場面絵の「ぼく」の毅然とした態度、ひろしの弱々しい表情、のぼるのぼつの悪そうな表情、更に教室のみんなの視線、「ぼく」を

見る表情などから、正しい行動を行うよさについて考えられるようにしたい。

7 校内研究テーマに向けた指導の工夫

共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成
～学習評価の視点から考える発問の工夫～

《学び合い学習》

- ・主人公がよい行動に起こすまでの葛藤した心情を、多面的・多角的に考えられるように、グループトークを設定し、考えを共有する。

《自己を表現できる子どもの育成》

- ・自分の考えに理由を添えられるよう話型を活用させる。
- ・自分の考えを示すことができるように、ネームカードを活用させる。

《学習評価の視点》

- ・中心発問を受けて全体で協議する中で、よいと思ったこと進んで行うことの大切さについて考えているか見とる。
- ・今後の生活でよいと思ったことを行うことについて、自分事として考えられるように学習後のふり返りの視点を提示する。

《発問の工夫》

- ・導入、終末の問い → “友達が、悪いことをしていると気付いた時、あなたならどうしますか？”と問うことで、善悪の判断について想起させ、ねらいとする価値への方向づけをする。また、同じ発問を問うことで、授業前後の考えの変容を見る。
- ・中心発問 → “のぼるのところへ行って、おれたものさしを渡したとき、「ぼく」はどう考えていたでしょう？”の問いから、よいと思ったことができたさすがしさに触れ、よいと思ったことを進んで行うよさや大切さを考えさせる。
- ・問い返し → “もしかしたら、強く言い返されたり怒られたりするかもしれないのにどうしてものさしを渡したのでしょうか？”
- ・ゆさぶり → “「ぼく」には関係ないから、ほっとけば良かったんじゃない？”

8 本時の展開

段階	学習活動	○主な発問 ◎中心発問・予想される反応	◇指導上の留意点 ■指導の観点
導入 5分	1. 友だちが悪いことをしていることに気づいた経験について話し合う。	○「友達が、悪いことをしているなと気付いた時、あなたならどうしますか？」 ・何も言えないかもしれない。 ・ごまかしたらだめだよと伝える。 ・他の友だちや先生に相談する。	◇内容項目「善悪の判断」に対する子どもたちの思いや考えをそれぞれ把握させる。 ■「善悪の判断」に対する授業前後の児童の考えの変

			容を見る。 (板書及びノートに残す)
展 開 33 分	2. 資料「おれたものさし」の範 読を聞く。		◇資料を見せずに、教師の 範読を聴きながら、何が よいことか悪いことかを 考えながら聴くように、 読む視点を与える。
	3. 場面追いをし ながら状況把 握をし、「ぼく」 の心情を考え る。	○のぼるがひろしにものさしを持たせてい るを見た時、「ぼく」はどんなことを考 えていたかな？ ・どうして、人のせいにするのかな。 ・ひろしは弱いから言われているのかな。 ・ひどすぎる、のぼるがやったのに。 ○「ぼく」は胸がどきっとしたとき、どんな ことを考えていたのかな？ ・また、人のせいにしてている。 ・あのと時と同じことをしている。 ・のぼるは怖いから言いにくい、どうしよ う。 ・見逃したらいけない、言わないと。 ・僕も嫌だったから、繰り返さないよう に言おう。	◇登場人物の心情や様子、 人間関係を気付かせる。 (のぼるはなぜひろしに目 をつけたのか、ひろしは どんな子なのか、二人の 関係も捉えられるように する。)
	4. 「ぼく」の行動 を考える。	◎ぼくは、この後のぼるにものさしをもど したと思いますか？ ・もどしたと思う。 →悪いことを人におしつけてはいけないか ら。 →正直に言わないといけないから。 →ぼくも同じことをされていやだったか ら。 ・もどさなかったと思う。 →のぼるがこわいから。 →まわりの人にも何か言われそうだから。 →自分には関係ないから	◇自分の考えに根拠をもっ て表すことができるよう に話型を提示する。 話型の提示 ぼく・わたしは、ものさしを (もどした or もどさなかつ た) と思います。 りゆうは、 _____ だと思 うからです。
5. 自分の意見に 当てはまる考 えにネームカ			◇考えをネームカードで示 すことで、考えの比較・共

	<p>ードで示す。</p> <p>6. グループで「ぼく」の心情や行動について話し合う。</p> <p>7. 後半の範読を聴く。</p> <p>☆全体交流する。</p>	<p>○友だちの意見を聞いて、考えが変わった人はいますか？</p> <p><u>問い返し</u></p> <p>○もしかしたら、強く言い返されたり怒られたりするかもしれないのにどうしてもさしを渡したのでしょうか？”</p> <p><u>ゆさぶり</u></p> <p>○「ぼく」には関係ないから、ほっとけば良かったんじゃない？”</p>	<p>有を図る。</p> <p>◇グループで、意見の交流をし、「ぼく」の気持ちについて考えを深め、その後の行動について話し合う。</p> <p>■よいと思ったことを進んで行う大切さについて考えているか。</p> <p>(発言・ノート)</p>
<p>終末7分</p>	<p>3. 今日、学んだことを振り返る。</p>	<p>○今日の学習で、大切だなと思うことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気をだして、ごなかしてはいけないことを伝える。 ・自分も相手もすっきりした良い気持ちになるために、よいと思うことをする。 <p>【まとめ】</p> <p>悪いことをしていると思ったら、勇気を出して伝えることが大切。</p> <p>○今日のふりかえりを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で分かったこと ・これからの生活について 	<p>◇ねらいに迫るキーワードを基に学習のまとめをする。</p> <p>■今後の生活でよいと思ったことを行うことについて、今日の学びを付け加えて自分の言葉でまとめる。</p> <p>(ノート)</p>

(3) 評価の視点

○良いことと悪いことの区別をし、良いと思うことを進んで行うことの大切さを理解できたか。

【観察・発言・ノート】(学習状況の理解)

○今後の生活で、よいと思ったことを行うことについて、思いや願いを深めているか。

【観察・発言・ノート】(道徳性に係る成長の様子)

